



図書の大量脱酸システム設備



図書の大量脱酸システム処理キャビン



国立台湾図書館 National Taiwan Library

装丁室見学ガイド

図書の大量脱酸システム

近代の製紙ではリグニンを大量に含んだ機器パルプを使用しており、ロジン—ミョウバン(硫酸アルミニウム)のサイズ剤処理も行ってたことから、大量の「酸性紙」が生産されました。この種の紙は時間の経過につれて次第に酸化して黄色く変色し、細かく砕けて劣化するので長期間保存が困難です。そこで当館では、2005年にドイツから Battelle 法による図書大量脱酸システムを導入し、脱酸溶剤 HMDO 及び脱酸試験薬 METE を適切な比率で混合した化学溶液を利用して浸漬と乾燥を行っています。作業はコンピュータで管理され、酸性紙質の書籍資料を中性または弱アルカリ性に中和して図書文献の寿命を延長させています。

冷凍除虫設備

物理的な毀損と化学的な劣化だけではなく、生物による害も図書文献の病害が発生する重要な原因の一つです。当館では低温冷凍殺虫方式を採用し、害虫に新陳代謝停止、細胞膜破裂などの生理現象を起こさせ、さらにその基本的な生理組織を破壊することによって、収蔵図書の虫害問題を検疫し制御します。

自主見学

- ・時間／毎週水曜日午前9：30～11：30
- ・見学者の方はガラス窓を隔てて図書の保護作業を見学して下さい。

室内ガイド

- ・時間／毎週水曜日午後14：00～17：00
- ・当館館員による台湾華語解説ガイドサービスを提供しています。
- ・1回の時間は約30分間です。
- ・見学日の5日前までに予約の申し込みが必要です。

連絡電話：(02) 2926-6888内線4217徐

交通アクセス

■ MRT
南勢角線（永安市場駅）下車



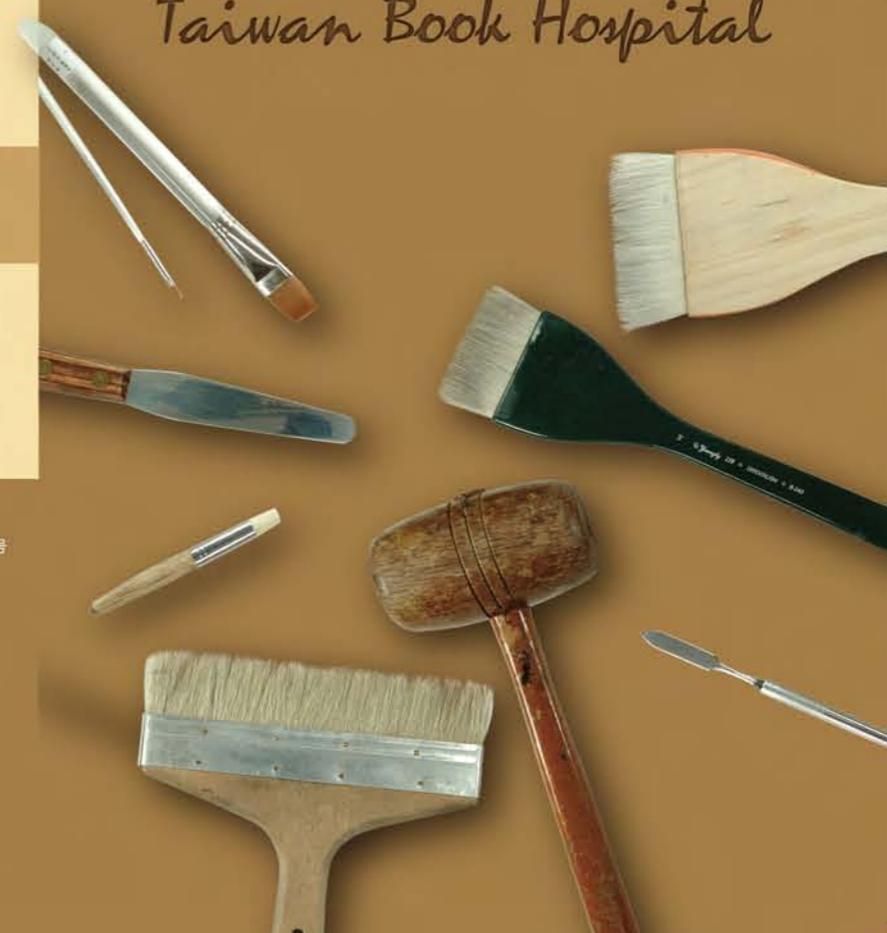
冷凍除虫キャビネット

國立臺灣圖書館
National Taiwan Library

当館所在地：23574新北市中和区中安街85号
URL：http://www.ntl.edu.tw
電話：(02) 2926-6888

台湾図書病院

Taiwan Book Hospital





折本



紙の水分含有率測定計



歴史沿革

当館の前身は日本統治時代の台湾総督府図書館です。西暦1915年の創設当初から「製本室」が設けられ、図書資料の表装修正や装丁作業を専門に担当する「職工」編制が存在していました。



1928年5月7-8日、台湾総督府図書館が開催した「図書修理法講習会」

1945年に当館は国民党政府に接收され、その後、館の名称および所属する行政単位が数回変更されましたが、1973年に現在の「国立中央図書館台湾分館」という名称に定められました。この間に「製本室」は「装丁室」と名称を変更しましたが、図書の整理と補修作業は中断することなく続けられました。

2004年12月に当館が現所在地の中和に移転した後、冷凍除虫設備と大量図書脱酸システムが設置されました。さらに2007年6月27日には「台湾図

書病院」が設立され、当館の長きにわたる図書修復保護作業の歴史を受け継ぐと共に、より先進的な保存観念と修復保護技術を取り入れ、図書を保護するという観念を全国各地へ普及させることを目指しています。

2013年1月1日より政府組織の改編に伴い、「国立台湾図書館」と改名いたします。



装丁室での作業の様子

現況紹介

台湾図書館は、装丁室／装丁技術と図書の大量脱酸システム・冷凍除虫設備とを一つに統合しています。以下に各設備を紹介いたします。

装丁室

従来の伝統的な図書補修装丁技術に現代の科学技術を結合させることによって作業効率を高めています。装丁室は2010年にそれまでの場所から移転しリニューアルするにあたって、吸気／排気式ケミカルフード、純水製造システム及び表装修復テーブルなどの多くの実験室関連設備を導入しました。現在、装丁室は当館の5階に設けられています。フロア面積は184平方メートル(約55坪)で、漢方薬、西洋の化学薬品及び各種の紙が陳列されています。また、日本統治時代の丸背製本機や1970年代の活字箔押し機などといった伝統的機具や近年次々と購入されたpHテスター、紙厚測定機、分光色差計、光学顕微鏡などの精密検査測定機器が設置され、中式・日本式(和装)・西洋式(洋装)に装丁された書籍の補修と装丁作業が進められています。



卷子本



吸気式ケミカルフードを利用して汚れた空気を排出